**第8回血液疾患免疫療法学会　演題申込用紙**

下記フォームに必要事項をご記入の上、**「筆頭演者名」をファイル名として保存し、作成したファイルを申込先〔申込先：abst@sihds8.hkdo.jp〕までメール添付でお送りください。**

記入漏れや不明な点がある場合は、事務局よりお問い合わせさせていただくことがありますので、メールアドレスは確実にご記入ください。演題発表の形式や時間は後日e-mailにて連絡いたします。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 連絡先住所 | 〒 | | | |
| 連絡先氏名 | ※筆頭演者の方と連絡先のご担当者が異なる場合にご記入ください。 | | | |
| TEL |  | FAX |  | |
| E-mail アドレス |  | | | |
| 使用機材 | □Windows  □Macintosh | システムOS | | PowerPointバージョン |
| キーワード  (3つまで) |  |  | |  |
| 発表形式  （希望箇所の○印を残す） | 口演のみ：　○ | ポスターのみ：　○ | | どちらでもよい：　○ |
| カテゴリー  ( )内に  第一希望は○、  第二希望は△印  をつける | 抗原提示細胞 ( ) | エフェクター細胞 ( ) | | ワクチン療法 ( ) |
| 養子免疫療法 ( ) | 抗体療法 ( ) | | 同種免疫 ( ) |
| 腫瘍性血液免疫疾患( ) | 非腫瘍性血液免疫疾患( ) | | 遺伝子治療 ( ) |
| 造血幹細胞移植 ( ) | その他 ( ) | | |

※ プログラム構成上、**発表形式のご希望に沿えない場合もありますのでご了承ください。**

※ **カテゴリーは第一希望に○、第二希望に△**をお付けください。該当がない場合はその他に記載ください。

※ 当日会場に準備するのは、Windowsのみです。Macintoshご使用の方は、予めWindowsで問題ないことを

確認し、当日会場でデータをご提出ください。動画や音声がある場合のみ、PC本体の持ち込みを許可します。

※ 演題名は、全角で70文字以下、英語で120 characters 以内です。

※ **３ページ目に演題・抄録登録の記載例**がありますので、参考にしてください。

※ 抄録本文は、フォントサイズを変えない範囲で枠内に収まるようにしてください。

文字数として、約1,300文字以内が目安となります。

※ **抄録はそのまま印刷して抄録集となります**ので、予めご了承ください。

特に、上付・下付文字、イタリック、ギリシャ文字などにご注意ください。

※ **本用紙に埋め込んであるフォントを変えないようにお願いします**。場合によっては事務局で修正させていただきますのでご了承ください。

|  |  |
| --- | --- |
|  | |
| **（全角７０文字まで、MS Pゴシックなど16ポイント）** | |
| (英語タイトル 120文字以内、Centuryなど14ポイント) | |
| ○演者名1 （MS明朝など、11ポイント） | |
| 1　施設名 （MS明朝など、10ポイント） | |
| 文字数は、枠内に収まる範囲内で、ご記入ください。  MS P明朝など、10.5ポイントで、サイズは変更しないで下さい。  【背景】【諸言】  【方法】  【結果】  【考察】  【結論】 | |
| 氏 名：  所 属：  E-mail： | ＊＊　＊＊  ＊＊＊＊大学医学部・＊＊＊科  @ |

**抄録記載例**

|  |  |
| --- | --- |
|  | |
| **人工抗原提示細胞を用いた HLA-A＊24:02 拘束性サバイビン特異的CTLの誘導** | |
| Efficient generation of HLA-A\*24:02 restricted surviven-specific CTL using artificial antigen-presenting cells | |
| ○小笠原　正浩1、太田　秀一1、平野　直人2 | |
| 1　札幌北楡病院　内科  2　トロント大学 | |
| 【背景・目的】　最近、大量化学療法と免疫抑制剤投与後のリンパ球減少期に腫瘍特異的CTLを投与する受動免疫により、悪性黒色腫瘍患者において50%以上の奏功を認め、注目されている。しかし、腫瘍特異的CTLをすべての患者から効率的に作成することは困難であり、この点を改善するため、今回、K562に・・・・・  【方法・結果】患者および健常人の末梢血からCD8陽性T細胞を分離し、サバイビンB2ペプチドをパルスし、放射線照射したaAPCとともにIL2とIL15存在下に培養した。aAPC刺激を１週間に３−４回行い・・・・・  【結論】　これらの結果は、サバイビンペプチドパルスaAPCを用いてHLA-A\*24:02拘束性サバイビン特異的CTLを比較的短期間に生産することが可能であることを示しており・・・・・ | |
| 氏 名：  所 属：  E-mail： | 小笠原　正浩  札幌北楡病院　内科  ・・・・・@hokuyu-aoth.org |